

一四〇年目の秋

蹉訪

31

松山戦争殉難者慰霊祭

匠探

十月六日、中台(匝瑳地区)脱走塚で水戸市の団体により、八日市場・松山戦争での殉難者慰霊祭が行われます。

「松山戦争」は、1868年(明治元年)十月六日(現在では十一月十九日)の昼ごろ、現在のそうさぬくもりの郷が建つ台地周辺で行われた水戸藩最後の内部抗争をいい、その戦死者を埋葬したのが脱走塚です。

幕末の水戸藩は天狗・諸生両派に二分され藩内抗争をくり返す中で、幕府崩壊により諸生派は立場を失いました。同年3月に水戸を脱出した諸

生派市川勢は北越、会津と戦し、最後は八日市場・松山台での戦いとなりました。

2時間余りの戦いが終わった後の遺体処理は松山・中台両村民が行い、翌2年5月には供養塔が建てられました。これ以降両村の人たちは折々に供養したことでしよう。

1889年(明治22年)5月には二十一回忌法要があり、紅白の餅を投げるなどのにぎわいが報じられました。

1925年(大正14年)になって市川勢の子孫朝比奈知泉兄弟が中台・脱走塚を訪れ、翌年には松山・中台両地区民

たちのお参りはずっと続いていたのでしよう。

昭和35年脱走塚は史跡として文化財指定を受け、同41年10月14日市民300余名が参加して「脱走塚百年祭」が行われました。それから40年、水戸市での諸生派市川勢の調査研究も進み、ようやくその足跡が明らかになりました。

最近の出版物では、明治元年十月一日の水戸弘道館での戦いに敗れた市川勢約80名は銚子を経て東京を目指す途中、八日市場村福善寺に立ち寄り解散を決めました。しかし、最後まで追討軍と戦うことを決めた者もあり、市川勢はこの戦いで41人が戦死・焼死、10人がのちに逮捕処刑され、30人が生き延びたとされています。

今回、一四〇年忌慰霊法要を行うのは、水戸藩諸生派の子孫で組織する「水戸殉難者恩光碑保存会」です。「水戸藩幕末の史実が歴史の闇に消えてしまふ」との危機感から設立されたとのことで、中台区の皆さんも法要に参加します。一四〇年目の秋も戦死者を悼む心が水戸の子孫とつながりました。



松山戦争の弔魂碑

ら70余名の寄付を得て供養碑が建てられました。碑文に「香火絶えず、今日に至る」とあるように地域の人